

## 第 125 回大村市在宅ケアセミナー 質問の回答

日 時 \* 平成 25 年 5 月 16 日 (木) 18:45~20:15

場 所 \* 大村市民会館 3階 大会議室

内 容 \* 福祉介護避難所の取り組みについて

大村市福祉保健部福祉総務課 川下隆治政策係長

### 《感想など》

\* 大村弁がわからなかったですが、その他のお話の内容は、テキパキとして情熱を感じました。とてもわかりやすかったです。川下さんのような職員さんがいると、心強いです。

(回答) 大変失礼しました。ネイティブなのでご勘弁ください。もう少し標準語勉強します。

- \* 災害時の要援護者に対する支援体制の整備を、平常時から地道に周到になさっている姿に、敬意と、大村市住民としての安心感をおぼえました。自分自身の防災対策を見直す意味からも参考になりました。
- \* 災害対策を考えなければいけないという意識はあっても、なかなか具体的には考えられない状況だった。今回の話を聞いて、日頃から災害時のことを意識していかなければいけないし、専門職、地域の中の一人として役割をはたせるような心構えをしたいと思います。
- \* 地域のつながりなど、災害時には必要さがわかりやすかった。施設も同じだけど、人と人のつながり、大切さ。これから、自治会がわかって欲しいし、広めてほしい！
- \* 地域の高齢者の状態把握が大事ですね。デイを利用していたりで、日頃のつながりが少なくなって、良く知らないのが現状です。
- \* 川下さんの熱い思いが伝わってきて、大変勉強になりました。要援護者、自分の家族を守る為に、行動に移していけたら、と思います。ありがとうございました。
- \* 防災についての話は、とてもわかりやすかったです。市の職員の方であんなに熱く話をしてくれる方がいることに大村市民として安心できました。議員さんみたいでした。
- \* 大村市、災害への取り組みが、深くできていることが安心でした。
- \* 「おおむら・・・手引き」川下様・・・演者の一生懸命さには感銘を受けた。

(回答) 災害という圧倒的な自然の脅威の前では、市も各法人さんも、そして住民のみなさんも、誰もが同じ地域の一員として向き合うほかありません。それぞれができることを最大限やり抜くことが災害対応の原点だと思います。その土台が「自助」です。私が今回のセミナーを通じて最も言いたかったのは、大災害が来ようと、みなさんが必ず生き残り、家族を守り抜く覚悟を持ってほしい、ということです。その先にしか「共助」も「公助」もありません。会員のみなさんは、普段からたくさんの支援を必要とする方々を支えておられます。その方々を災害時でも変わ

らず支えることができるよう、必ずみなさんに生き残ってほしいのです。綺麗ごとではなく、それこそが災害時要援護者を支えるために必要だと私は思います。

- \* 福祉介護避難所のお話し、大変参考になりました。なかなか現実味が無く、考えていなかったのですが、明日は我が身と思い、今日のお話しを参考にさせて頂きたいと思いました。
- \* 福祉介護避難所・・・大村市の取り組みが良くわかりました。とても必要な取り組みであり、施設としてだけでなく、地域の中の一人として考えていくべきことだと思います。
- \* 介護避難所の話し、参考になりました。町内会が必要だとあらためて思いました。団地に住んでいますが、72 世帯の氏名など知りません。コミュニケーションをはからなければ、と思いました。

(回答)今回、会員でもある専門家のみなさんのご協力で、「おおむら福祉介護避難所開設・運営のてびき」(H25.3)を作ることができました。市との協定に基づいた福祉介護避難所の指定、運営の手順等を定めています。ぜひ、一緒に災害時要援護者の支援に取り組んでいきましょう。ただ、福祉介護避難所を有効に機能させるには、地域との連携が重要であり、今後も自主防災組織等との協力体制づくりを地道に続けていくつもりです。

- \* 要援護者を助けるしくみを作ることは大切と思いますが、助かった後のことまで考えておくことが大切ではないでしょうか。これまでの災害時にも、孤独死、喪失感によるうつなどが問題になっていると思います。ただ、助けるだけのことが必要でしょうか？

(回答)私も全く同感です。しかしながら、現時点では発災直後の初動である「助かる」と「助ける」に力点を置いています。そこから繋がる緊急・応急対応として福祉介護避難所も位置付けています。その先には長い生活再建の道のりがあり、息の長い支援体制が求められることは仰っておりだと思います。そのためには、地域のつながりを活かした支援、そして法人さんの事業継続性を高めることが大切であり、「おおむら災害時助け合いプラン」(H23.3)で既にその方向性を明記しているところです。今は、発災直後の支援の姿がようやく見え始めた辺りですが、段階を踏んで取組みを進め、時機を見て生活再建～復興段階の支援プランづくりを手掛けてみたいと考えています。